|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | ２部１章２節　世界の気候と人々の生活  選択事例　自然１　モンスーンの影響を受ける地域での生活　─東南アジア─ | | |
|  | １　モンスーンの影響と人々の生活 | 教科書  p.76～77 | 年　　　月　　　日 |

**年　　　組　　　番／名前**

部分サンプル　※本資料はサンプルのため、内容が変更される可能性があります。あらかじめご了承ください。

□学習課題

季節風（モンスーン）は、東南アジアの人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。

＜学習のポイント＞

1. 東南アジアの気候を特徴づける季節風（モンスーン）がもたらす降水量の季節変化や、赤道からの距離は人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。
2. 季節風は東南アジアの交易にどのような影響を与え、それは、地域の人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。
3. 東南アジアでみられる多民族国家では、どのように民族共生を図っているのだろうか。

Qトンレサップ湖周辺で、高床住居がみられるのはなぜだろうか。

A．〔　　**（例）トンレサップ湖は、季節で水位が大きく変動し、特に雨季になると湖の水位が大き**

**く上昇し、周囲の低地が水没することがあるから。**　　　　　　　　　　　　　　　　〕

**●モンスーンの影響を受ける人々の生活**

* 東南アジア

…インドシナ半島を中心とする大陸部、マレー半島および列状に連なる島々からなる島嶼部

* 赤道付近に位置する島嶼部…１年を通して雨が多い→熱帯雨林気候
* 大陸部…〔　　**季節風（モンスーン）**　　〕の影響を受ける

・夏は海から大陸に向かって南西の季節風

　湿った空気が吹き込む…〔　　**雨季**　　〕

・冬は大陸から海に向かって北東の季節風

　乾いた空気が吹き込む…〔　　**乾季**　　〕

　→サバナ気候

* 環境を改変した暮らし

メコン川やチャオプラヤ川などの河口付近には広大な〔　　**三角州（デルタ）**　　〕が発達

→雨季には水没→居住や農業には不向き→運河や用水路の敷設→人々が移り住んで、農業・商

業が活発に

●モンスーンを活用した交易の歴史

部分サンプル

* 季節風を利用した海上交易…古代から海上交易が行われた。特に島嶼部は海上交通の拠点

→ムスリム商人、中国人、インド人が渡来…宗教や言語など、まざまな文化が流入

* 宗教の伝播

・〔　　**イスラーム（イスラム教）**　　〕…ムスリム商人がもたらす

マレー半島や周辺の島々に広まる→インドネシアは世界最大のムスリム人口を有する

　　　・〔　　**仏教**　　〕…大陸を通って伝わる

タイやカンボジアなどで広まる→現在でも人々の生活に大きな影響を与える

●さまざまな民族が共に暮らす社会

* 交易と植民地化の歴史…多くの民族が混在→〔　　**多民族国家**　　〕の形成
* （例）マレーシアの民族構成

・マレー系住民（人口の７割）

・中国系住民〔　　**華僑・華人**　　〕

・インド系住民

　…民族で異なる言語を使用→他民族間の会話は英語を使用

* マレーシアにおける民族間の対立

中国系住民：都市部に多い、経済面で優位↔マレー系住民：農村部に多い

→経済格差、対立が生じた

* 経済格差への対応

〔　　**ブミプトラ政策**　　〕の導入…マレー系住民を教育や就労の面で優遇

→農業以外の分野にも進出できるよう配慮

▼確認

東南アジアの大陸部の気候の特徴と季節風の関係を確認しよう。

**（例）夏は海から湿った季節風（モンスーン）が吹き込むことで広範囲で雨季となり、冬は大陸からの乾燥した季節風が吹き込むことで乾季となる。**

**東南アジアの大陸部では、5～10月ごろに海から大陸に向かって、南西の湿った季節風が吹くため雨季となり、11～4月ごろには、大陸から海に向かって、北東の乾燥した季節風が吹くため乾季となる。**

▼説明

東南アジアの国々が多民族国家となった背景を自然環境と歴史の両面から説明しよう。

**古代から、季節風を利用した船の往来が盛んで、海の交易が行われてきた。東南アジアの各地には、西アジアのムスリム商人をはじめ、中国やインドなどから多くの人々が渡来し、言語や宗教・芸術・社会制度などがもたらされ、各国で複合的な文化が育まれてきた。**

**（例）東南アジアは、古代から季節風（モンスーン）を活用した海上交易が行われ、ムスリム商人や中国人、インド人が渡来したことに加え、植民地支配の歴史を経ることで他地域からも移民が集まり、多民族国家が形成された。**